

令和5年度海事問題調査委員会報告

海事問題調査委員会 委員長 松田 洋和（東船大 N22）

令和5年度の海事問題調査委員会では、調査テーマについて議論し、この年度では、全体の主題を設定せず、各委員がそれぞれの調査テーマを決定し、調査、報告をまとめることとした。調査テーマは各委員が日頃から問題であると認識しているテーマを選定した。

以下に各委員のテーマおよび概要を記載する。

I. 次世代 AI に求められるもの

昨今、陸上、航空及び海上における乗り物の自動運転化は、目覚ましい発展と、近未来に明るい展望を与えている。この報告では1.海上分野における自動運転の状況、2.次世代 AIS (VDES)、3.次世代型 AIS 等に求められるもの、について報告されている。

II. 船上労務管理にかかる考察

この報告では現場となる船上の労働・休息時間の管理に焦点を絞り、労務管理者としてその遵守に努める上で、直面してきた諸問題に触れ、考えられる対策が報告されている。ただし、筆者が労務管理者として乗船してきた船種（バラ積船）での経験に基づいているので、他船種において当てはまらない部分があること、例証や対策が甲板部での出来事に偏る可能性があるため、ご了承ください。

III. 日本人外航船員に求められるアップスキリング

日本人外航船員の人材育成では、船社における運航管理業務全般への対応や営業支援要員としての役割を果たすためのリスクリングと運航要員としてのアップスキリングがあると思われる。本報告では、日本人外航船員が、採用後にキャリアアップの過程等で求められるアップスキリングに着目し、調査研究を行った。

IV. GHG 対策の現状

2023年7月3～5日に開催された国際海事機関（IMO）第80回海洋環境保護委員会（MEPC80）では2030年までに、GHG排出を20～30%削減（2008年比）2040年までに、GHG排出を70～80%削減（2008年比）2050年頃までにGHG排出ゼロを目標とすることが提言された。この目標実現のための現状把握および対策として、本報告では1.既存船燃料規制（EEXI）・燃費実績（CII）格付け制度、2.船体塗装、3.LNG二元燃料機関について述べられている。

V. 操船 SIM・BRM 研修で感じた違い

本報告では、操船 SIM・BRM 研修で感じた昔と今の操船に関する違いを見つめ、より安全な航海について考察した。考察項目は1.操船者の立ち位置、2.簡易操船、3.コミュニケーションです。

海事問題調査委員会委員

委員長 松田 洋和（東船大 N22）

委員 四方 哲郎（神船大 E18）

阿部真二郎（神船大 N38）

杉谷 昭（神船大 E27）

関川 倫廉（東船大 MN10）

宮川 敏征（神船大 N37）

増山 克己（海洋大 NN4）

令和5年度海事問題調査委員会報告書は、本誌101頁～126頁に掲載していますのでご一読ください。